

三代道沢右俣

一九七七年六月二十六日

◆天気(雨のち曇)

三日間も小雨が降り続き、なかばあきらめていたのが、天候回復のきざしが見えたので小雨の中福島を車で出発。米沢を過ぎた所で雨があがる。スカイバレーの入口、沢近くに車をおいて入谷。たいして大きな滝もなく単純だが、やがて廊下状となり沢登りらしい気分になる。F3を越えるとナメが続いている。F5を越え二俣、右俣をつめる。

左俣には大きな滝(約三〇メートル)があり、次回の楽しみとする。水量比で二・三と右俣の方が多い。右俣に入ると水が冷たく感ずる。やがてF6階段状の見事な滝である。四回程のナメ滝を越えると砂防ダムに出る。登山道さえない山中でも積んだ石をコンクリートで固めてある。しかし砂防ダムも埋れて、ダムとしての機能はほとんど果せなくなっている。F8は高さ約四〇メートルで、ハングギミに落ちている。左岸を捲くが浮き石が多く、草

も確実なホールドとはならず、ヒザや手のフリクションだけで登る。捲き終えて滝の上に出る。F9に続くナメは非常に滑りやすい。ここからは平凡な沢となる。F10は左右どちらでも登れそうだが、左岸を捲いて登る。この上で沢は二つにわかれるが水量はまだ割合多い。砂防ダムを二つ越えるとまた二俣。いよいよ水量が少なくなったので途中よりヤブをこいで登山道に出る。時間が早かったので地竹やワラビをとりながら下る。

(タイム)

出合八・二五―二俣九・〇〇―沢終了一二・二五―登山道一二・三〇―若女平一三・一五

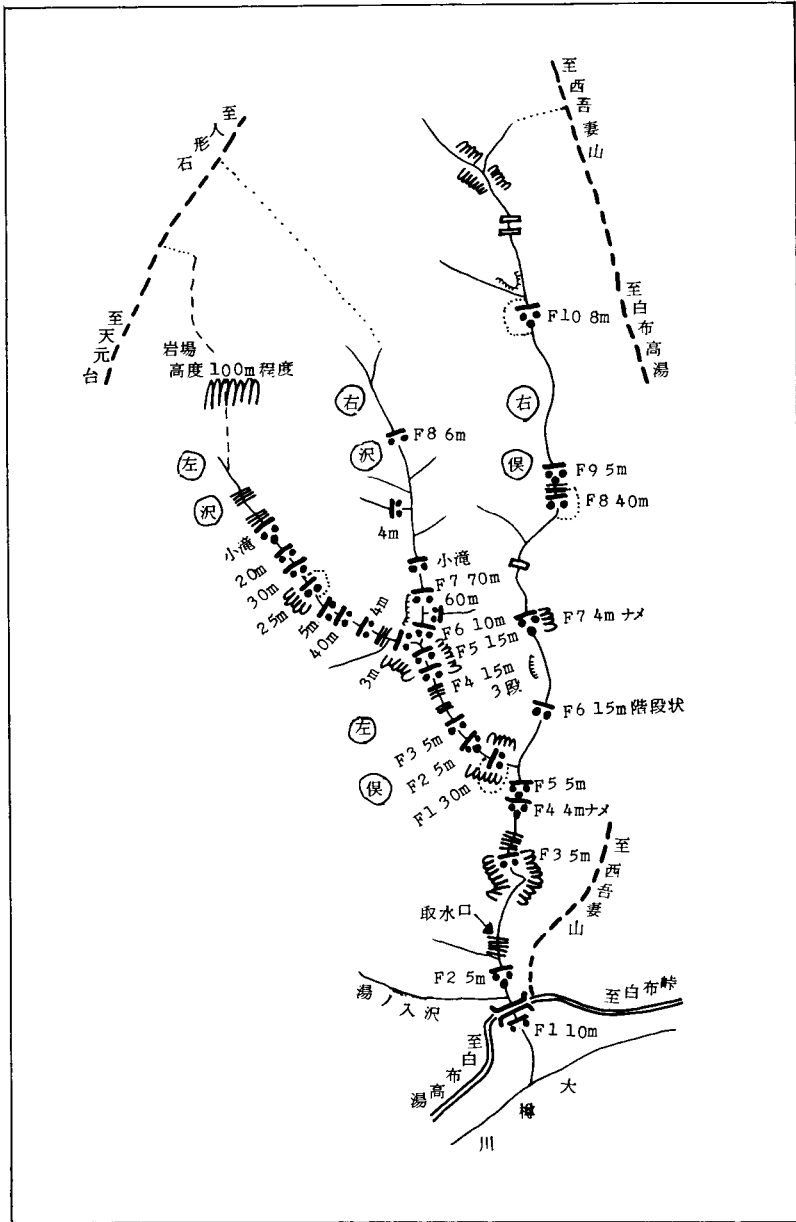
(記・)

三代道沢左俣右沢

一九七八年六月二十五日

◆天気(晴)

七時一五分湯ノ入沢出合に車を置いて沢に入る。一條は沢が初めてで、わらじが信用できないのか、かなりペースは遅い。二俣まで一時間五分。左俣最初の滝は左岸



三代道沢 (作図：梶 勇)